



2001.12.14
第116号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
峯 島 和 彦
編集 協力
津・耶麻・両沼
地教委 連絡 協議
小・中 学 校 長 会



教育への願い

福島県教育庁会津教育事務所総務次長

藍 原 孝 文

戦後の民主的な教育のもと、
一社会人として公的な教育に関わり、また、一保護者として子供に教育を受けさせる立場から今日の教育を考察するとき、何よりも、子供たちが人間として真っ当に生きる力を育むことを願わずにはおれない。

子供たちには、複雑多様な社会の中で自分の存在が無力にみえたり予期せぬ事態に遭遇しようとも、自分を見失わないこと、また、他人を見捨てることのないことを願うものである。

人間は、古来より神の如き全知全能を夢みてきた社会的動物であるが、現実の生身の個人にとっては時空的にも能力的にも有限な存在であるが故に、教育は、人の多様な能力の可能性を社会の中で有効に発現させることを促進したり抑制したりすることにより、人をして人間たらしめることができるのである。

なぜなら、世界がグローバル化し、テロと戦争、貧困と飢饉、環境汚染と生態系の攪乱、失業と自殺等人間の前途を脅かす問題現象が起きていることをテレビや新聞などで日々耳にするたびに、我々自身、幾多の矛盾を内在する現代の高度な産業経済社会の中で人はいかに生きるべきなのか、その生き方が自問されるのである。また、未来を担う子供たちに対して、政治経済、文化科学、歴史等人間の財産を継承しながらいかに生きるべきかを総合的に教育することがどんなに大事であるかを痛感させられるからである。

それ故、個性化や主体化が進む現代の競争社会においては、異なる他者の存在関係を十分に認識し、協調と協力による共生のもとで自らの持てる能力を開花発展させ、自己実現を図っていく力を培うことが、今日の教育にとって極めて重要な課題であると考えるのである。

我国では、「教育改革」ののもと、義務教育において、国際化教育、情報化教育、環境教育等各種の施策が講じられ、山積する教育課題への取り組みが行われている。また、本県では、「共生と自立」を基本とする第五次福島県長期総合教育計画が策定され、「人・地域・自然と共に関を磨く新世紀ふくしまの教育」を基本目標に据えて、「生きる力」を教育課題にした実践的取り組みが展開されている。まさに学校現場の教師をはじめ教育関係者の熱意と創意と努力が期待されるところである。

本年度の各地区における児童生徒の基礎学力向上のためのライジングプラン（基礎学力向上推進支援事業）への真摯な取り組みに感謝と御礼を申し上げます。

平成十三年度 ふくしまの教育ライジングプラン （基礎学力向上推進支援事業）

○つまずきや力の高まりに応じたきめ細かな支援

T・Tやコース別学習、習熟度別学習などきめ細かな支援を実施している学校が増えている。

T・Tの指導方法の工夫や継続的指導に努めるとともにその成果を累積する。

○的確に対応する小・中学校の接続

小・中学校だけでなく高等学校や幼稚園、保育所などと合同授業参観と事後研究会を開いている地区もある。

小・中それぞれが抱える課題をお互いに協力して解決していく方策を具体的に協議していく必要がある。

○課題や方向性の共有化を目指す諸会議等

各学校での実践例を研究収録や広報誌で紹介している地区もある。

課題や研究協議を授業参観の前に周知するようにしたい。

○子どもの目線に立った実践把握

学力テストの結果や日常の観察、学校独自の調査の分析などから実態把握に努めている学校が多く見られる。

結果を具体的な支援に結びつける工夫を図りたい。

国際感覚を育てる国際理解教育

河東町教育委員会

河東町では、平成十一年度より、「国際社会に生きる河東の子ども」の育成をめざした学校教育国際化事業を展開し、三年目を迎えた。

国際社会の一員として生きていくためには、共生を視野に入れたアイデンティティーの確立、世界の人々とコミュニケーションを図っていくための英会話やコンピュータ活用能力などが不可欠となる。

そこで、町では国際理解教育推進委員会を設置し、「国際感覚を育てる国際理解教育はどうあるべきか」を研究主題として、「文化理解教育部」「コンピュータ教育部」「英会話教育部」を創設して、町内四校が学校間の連携を図り、各小中学校の特色を生かしながら、総合的な学習の時間を中心に実践に取り組んでいる。

文化理解教育部の実践

文化理解教育部では、体験的な活動や交流活動を工夫することで、①自国文化理解能力、②異国文化理解能力、③相互理解能力の育成をめざしている。

小学校では、主に外国人をゲストに招き交流学習を行っている。スリランカ人から自国のカレーライスの作り方や食べ方を教えてもらったり、カナダ・イギリス・中国出身のゲストティー

チャーと各国の遊びを通して触れあったりする中で、文化の違いに気付き、それを尊重する態度も育成されてきている。

その他、環境や福祉、郷土の歴史や文化財に関する内容についても、体験的な活動や問題解決的な活動を取り入れ、文化理解教育に努めている。



中学校では、一年から三年まで、「会津河東発見」「日本ふしぎ発見」「世界はひとつ」のもとに、個人テーマを設け、段階的に視野を広げることで、学習活動や自国文化・異国文化理解が深化・発展するよう工夫している。また、今年度は「ツールとして英語、コンピュータを用いながら、日本を発信するとともに世界の文化を理解する」ことを年間テーマとした選択社会国際理解コースを開設した。

各学校とも、結果をプレゼンテーションソフトを使って発表

したり、ホームページにまとめて情報発信したりする活動にも積極的に取り組んでいる。

英会話教育部の実践

小学校三校とも全部の学年で英会話教育を行っている。

町共通の英会話目標のもと、各校ごとに児童の実態に応じて活動や技能の目標を設定し、ゲームや歌を取り入れ、英語の発音を大切にしながら楽しく学習できるように工夫している。

この活動は、担任とインストラクターとのチームティーチングで行い、そこにALTが入る場合もある。「あいさつ」「動物園で遊ぼう」「買い物ごっこをしよう」「今日はどんな日」「英語劇をしよう」など、各学年の発達段階に応じた英会話の学習をしている。

高学年では、英会話ソフトやインターネットホームページを活用した英会話指導も行っている。さらに、各学校では、年に数時間、外国人ゲストを迎え、交流を含めた英会話の授業も行っている。

中学校でも、外国人との交流を通じた英会話指導に積極的に取り組んでいる。また、各学年とも「Let's Enjoy English」を年間三十五時間確保し、教科書の既習事項を活用したALT主体の授業を展開し、英会話力の

充実に入れている。実践の結果、各校とも、ALTやインストラクター、外国人と進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする姿が見られるようになった。



コンピュータ教育部の実践

本町では、小学校六年間と中学校三年間の九年間を通じた到達目標を明確にし、各教科、総合的な学習の時間、特別活動などの指導計画にツールとして効果的にコンピュータを位置づけることで、段階的なりテラシーの向上を目指している。

低学年では、七夕の願いや案内状をワープロソフトで作成したり、中学年では、身近な自然をデジタルカメラで記録してホームページにまとめたりしている。高学年の調べ学習では、インターネットで調べたり、電子メールで関係機関に問い合わせたりするとともに、発表やまとめにも使用し、ツールとしての活用を充実させている。

英会話同様、各学校の計画に

従って、小学校一年生から担任とインストラクターによるティームティーチングが実施されているため、リテラシーは着実に向上してきている。

中学校では、授業の中での積極的な活用や他、「情報活用講座」を総合的な学習の時間の年間計画に位置づけ、小学校での習得実態や発達段階に応じて、全生徒の技能の習熟が図れるようにしている。また、国際理解教育を率先して推進するためのIC部(Internationalization through Culture and Computers)を創設し、ホームページを作成したり、国内外の学校と電子メールによる交流を行ったりしている。

国際理解教育の環境整備

本町では各学校二十四時間接続できるインターネット環境やコンピュータ室の整備、校内LANの充実が図られてきている。また、英会話やコンピュータ操作のためのインストラクター派遣にも積極的に取り組み、その数は平成十三年度には小中四校合わせて二八二八時間に及んでいる。これは児童生徒の支援体制だけでなく教職員研修にも大きな成果をあげている。

三年間の継続的な取り組みの結果、町内児童生徒の国際感覚は、英会話能力やコンピュータリテラシーと併せて大きく向上してきている。今後も実践研究を重ねていきたい。

総合的な学習の時間の取組み

さわやかタイム 塩川町立塩川小学校

本校では、今年度より「生き生きと学び、よりよく生きようとする子どもの育成」を研究主題に掲げて、「総合的な学習の時間（さわやかタイム）」の研究に取り組んできた。

特に、今年度は「学ぶ力」に加え「地域に生きる力」の育成を重点課題とし「自分たちが暮らす塩川町のよさに気づき、愛着を持ち、進んで塩川町のために行動できる子ども」の育成をめざしてきた。

各学年ごとにテーマを子どもとともに設定し、子どもたちの思いが実現できる支援を工夫しながら実践してきた。

〈さわやかタイム六年の実例〉

六年年のテーマは、「見つめよう！わたしたちの町 塩川町 伝えよう！ほくたちの町のすばらしさ」である。児童一人一人の課題をもとに練り上げ、七つのプロジェクトチームが発足した。自分たちの課題を解決するためイメージマップを作成し内容や方法を考えたり、学習のあとを残し反省に生かすための「学習カレンダー」を活用したりしながら、お互いの活動を確かめ合う場で、友達によさにも気づきながら学習を進めた。

「いかに作り挑戦プロジェクト」チームは、夏に町で開催される「川の祭典」でのいかに

下りに着目し、自分たちもいかに作って参加したいという思いから、いかに設計図を考え材料を集めゲストティーチャーの協力を得ながら作製し、いかに下りに参加した。その結果、みごと入賞することができた。

このような、自分たちの願い

自分の生き方を見つめながら 新鶴村立新鶴小学校

「おはよう。」
「グッドモーニング。」
毎週、金曜日にはALTの桑原マイケル先生が学校にやって来る。ハワイ出身のマイケル先生は納豆や生卵が大好きで、子どもたちの人気者だ。

本校の総合的な学習の時間は、マイケル先生と一緒に学習する生と一緒に学習する「国際理解」、「栽培」、「情報」、「新鶴村に関する事柄」の四つの分野で実施している。

栽培活動では、米やニンジン、里芋、ネギ、枝豆、トウモロコシ、ジャガイモなどを栽培し、秋には縦割りの班で芋煮会を行い一人暮らしのお年寄りを招いて一年間の収穫を祝っている。

情報活動では、インターネットを利用したパソコン学習に取り組む、六年生は新潟市で行われた修学旅行を兼ねた体験学習で加茂市立石川小学校とのメール交換で情報を得るなど、積極的にパソコンを活用している。

新鶴村に関する事柄では、六年生で中田観音の近くの古墳や昔の村の様子を調べる歴史学習をはじめ、五年生で村の川とそこに住んでいる人々の暮らし、四年生で新鶴村の特産物にかかわる人々の暮らし、三年生で村の生き物調べと、学年の発達段階に即した学習活動を展開している。

さらに、老人クラブとの交流事業として六年生の菊作りや四年生のサルビアの栽培を行い、秋にはお年寄りとの交歓会を実施しており、来年度からは総合的な学習の時間の取組みとしてこれらの内容も充実させていく予定である。

次年度は年度当初から金曜日に来校するALTとの国際理解の学習を充実発展させ、地域の文化や地域の方々との交流も深めながら、充実した総合的な学習の時間を展開したいと考えている。

を追究する「さわやかタイム」の時間の中で、子どもたちが自分に気づきながら、人との触れ合いを通して大きく成長してほしいと願っている。



小規模校のよさを生かした 「総合的な学習の時間」の取組み 金山町立第一中学校

本校では、今年度より、「総合的な学習の時間」を教育課程に加えて実践している。

○名称：「郷土の時間」
○テーマ：「郷土」
○活動方法：個人課題学習
○評価方法：ポートフォリオ評価

○時数：三十五時間

年度はじめに、ガイダンスを実施し、学習のねらい等を説明し、全校体制でスタートした。

次に、全校テーマをもとに、一人一人が各自の課題を設定した。課題の設定にあたって、縦割り班を構成させ、ウェビング方式を取り入れた。その結果、主体的に課題設定する姿や互いに修正する姿が見られた。

その後、課題解決に向け、活動計画を立案させた。できるだけ計画どおり実践できるように、地教委や地域の方々と連携を図り、校外での体験活動の受け皿づくりなどを行った。郷土についてインターネットを活用して調べる姿や地域の家庭に出向き意欲的に活動する姿が見られた。

また、活動の記録及び自己評価を記入する学習カードを準備し、活動時間ごとに、教師がコメントを記入するシステムで支援し、活動記録を一冊のファイルにまとめていく「ポートフォリオ評価」を実践した。文化祭

では、各自が創意工夫を凝らしてまとめたファイルを全校生で鑑賞し合い、互いに認め合う場を設けた。また、お礼の気持ちを込めてお世話になった地域の方々を招き、その成果を披露した。

この他に、教育委員会の支援



郷土の食文化について学習する生徒たち

を受けながら、地域のそば打ち名人等を講師に招き、郷土の伝統的な食文化である「そばづくり（そば時きりそば打ち）」を体験する学習を取り入れ、「郷土の時間」の深化充実を図っている。

終わりに、生徒の主体性の育成や地域との連携が図れたこと、郷土の素晴らしさを実感できたことは大きな成果である。課題も山積しているが、この経験を生かし、今後も特色ある教育活動を推進していきたい。

小町塚伝説で小町の里づくり

高郷村教育委員会

高郷村の西の端、西会津町にも近い峯利田のはずれに、ひっそりと小町塚がある。そこには人々の口から口へと語りつがれたかなしくも美しい伝説がある。ここは古くは越後街道であり、現在は県道喜多方・西会津線が通っている。阿賀の流れ、けやきの大樹、ふと足を止めてみたくなる。そのけやきの下に小高い土盛りが塚があり、五輪の塔が建てられている。今年の五月には、村商工会を中心とした小町の里づくり実行委員会によって、化粧清水・駐車場・東屋などが整備された。

時は平安の昔、年老いた小町が乞食同然の姿でやってきた。小町は生まれ故郷の出羽の国へ行く旅の途中であった。この村の一軒のとまやに一夜の宿をたのんだ。応対に出た老農夫は驚き、かつ喜び言葉も出ないというほどであった。農夫はその昔、京夫に上げられたとき、小野家に仕へ、小町の身近くにかしずいた。そのとき、小町の親身のお世話を受けたのであった。二人は手をとって合せて奇遇を喜び合った。

地域に学ぶ

すすめられるまま、しばらく逗留する間に、小町はこの地になくなったという伝説である。

平成十一年四月には岩田善一郎氏脚本、坂内宗之氏演出で、「小町よどこへ」の音楽劇が演じられキャストはすべて村民という盛り上がりみせた。十二年七月には商工会婦人部を中心に小町太鼓が結成され、未来博にも堂々の演出ができた。平成十三年四月、小町塚広場で「小町の里まつり」が盛大に行われ、今、村は文化財小町塚を中心に高まりをみせている。



いつも手入れされている小町塚

知事賞をいただいて

北会津村立川南小学校

百四十八名の児童は素直で明るい。花を育てたり、チャボの世話をしたり、米や野菜を作ったりすることが大好きである。芭蕉のように大きな葉、赤や黄色の見事な花のキャンナに道ゆく人の目がとまる。この度、学校環境緑化コンクールで知事賞をいただいた。

本校の目標は、

郷土北会津村を進んで知り、かわり、愛することのできる川南の子ども

人・自然・文化とかかわりながら、将来にわたって北会津を愛し、誇りとする大人に成長してくれたらと願っている。五年生が育てた古代米が刈り取られ、校庭のフェンスに掛けられている。その後、古代米は昔からの脱穀、籾すりの手法で米にされる。米について、五年生の追究活動が続く。

学校裏のクスギ林を生かした「シイタケ栽培」は、これも、全校児童の活動であり、山のない北会津村の児童が森林について関心を深められたらという気持ちで始まった活動である。今、児童と共に受賞の喜びを噛み締めている。そして、この活動に惜しみない協力や支援をくださった保護者や地域の方々感謝しながら、さらに精進する決意である。



みんなで子育て

楽しい子育て

会津本郷町立本郷幼稚園

「子供は町の宝」という共通認識のもとに、幼稚園・保育所・小・中学校・町の各関係機関が連携を持ち保護者や町民と手を携えて子育て支援に当たっています。その合言葉は「楽しい子育て」で、五つの柱に添って支援活動を行っています。

- ①子育てサークルの育成と支援
未就園児親子の交流の場、保護者同士の友達づくりなどそれぞれの目的を持った三つの子育てサークルと、ボランティア活動を通して、または幼児が卒園した後も保護者同士が親睦を更に深めあつていくというOB会などの二つの子育て支援団体があり、互いに連携しながら子育てにかかわっています。
- ②子育て相談会の実施
臨床心理士や精神科医を招いての相談会の実施や、各関係機関が連絡をとりあつて相談に応じています。
- ③幼児の育ちの支援
育てる部分、育つ部分の両方を大切に、地域や自然に多く触れ、また乳幼児や高齢者とふれあうなど実体験を通しての活動を多く取り入れています。
- ④保護者への支援
幼児の言葉集「あのね」の発行や、「本郷町散歩」「本郷町の四季」などを通して地域に親しむ機会を提供したり、また父親の役割や存在感が発揮できるような企画などを行っています。
- ⑤各関係機関の連携による支援
「親子コンサート」「子育て講演会」「高校生によるコンサート」、また小中学生との交流など多くの機関がかかわりあつて支援に当たっています。
そんなこんな、みんなで子育てにかかわって楽しんでいます。



生涯学習施設としての学校 西会津町教育委員会

本町は、四校の中学校を統合し、二十世紀に向けた高度な学習環境の整備を進め、平成十四年四月の開校に向け取組み中である。「すべてにやさしい人間の育成、情報化と国際化に対応できる開かれた学校」を教育委員会の基本理念とし、やさしさにあふれる開かれた学校、町民の多様な学習需要に対応した「開かれた学校」を目指した学校施設を整備し、学社融合を深め

ていく考えである。学校教育で使用する施設は、校長が管理し、社会教育並びに交流施設として開放する施設は社会教育課が管理する。また団体や個人で利用する開放施設は自主管理できるよう組織化する。「学校があたかも三世代家庭」のように、日常的な交流が図れるように整備する。

本町は、全町を網羅する双方向機能を持つケーブルテレビを整備しており、ネットワークに接続したパソコン、通信テレビ等マルチメディアを活用した高度情報通信機能の導入を図り学校教育、社会教育の充実に努めたい。そのためにも、生涯学習に関する総合的な情報を提供するための情報収集、提供システム及び生涯学習を基盤とする地域開放型の施設とする。

校舎は、快適な文教施設であり、地域性や自然との調和をもった地域に開かれた安全な施設、高齢者や身体障害者にも配慮した施設である。また太陽光発電システムを導入するこ

とを導く。「克己の心」(武道)の育成につながる指導・支援のあり方を追求し、生徒の学習・生活環境を整えることができれば、本主題を達成できると考え、

私の実践

T・T導入による授業の改善

喜多方市立第一小学校 佐藤 由美子

教室に「もう一人」の教師が加わることで「授業」をどう変えることができるのだろうか。また、「授業」をどう変えていったらよいのだろうか。そんな疑問からスタートした本実践は、児童一人一人の個性への対応を目指したT・T指導のあり方を明確にすることを通して「自ら学ぼうとする意欲」と「基礎学力」を高めたという願いから取り組んだものである。

1、個別支援の工夫
複数の教師が互いに役割を分担し、個に応じた指導を展開している。個別に子どもの気付きを促す助言を与えることにより、短時間の中で自己修正ができるようになった。

2、役割演技による課題設定
子どもとの身近な生活体験を教材化し、TとTによる役割演技

3、話し合い活動の活性化
互いに意志の疎通を図りながら、話し合いの「きっかけをつくる」側と、話し合いの「焦点化を図る」側に分かれて話し合いを組織することで原理や意味の理解、さらには、数学的な考え方や算数のよさを感得させることができた。

以上、概略を述べたが、来年度からの新学習指導要領全面実施に向けて、全職員が一丸となって指導方法の工夫改善に努めているところである。

自ら課題を持ち、進んで運動に 取り組む生徒の育成を目指して

山都町立山都中学校

本校は、文部科学省の体育・スポーツ推進校の指定を受け、「自ら課題を持ち、進んで運動に取り組む生徒の育成」を研究主題に掲げ、研究に取り組んできました。「克己の心」(武道)の育成につながる指導・支援のあり方を追求し、生徒の学習・生活環境を整えることができれば、本主題を達成できると考え、

(1)「剣道の授業」の充実のための指導・支援のあり方
(2)生徒会行事(スポーツ)等の活性化
(3)運動部活動の充実のための指導・支援のあり方

剣道の授業では、各学年とも日本剣道形を導入することで、剣道の本質に触れられるように工夫しました。日本剣道形は、打太刀と仕太刀がお互いに「相和する心」を持ち、思いやりの心の大切さを学ぶ機会となるようにし、技能で学ぶ機会を学ぶことと対人技能の向上を目指しました。

生徒会行事では、生徒会が中心



私の抱負

宝ものをみがく

喜多市立入田付小学校
校長 石綿 吉男



朝と帰りには全校生三十名と元気なあいさつを交わし、健康状態を把握するように心がけている。会津盆地を見下ろしながらマラソン・菊の一人二鉢栽培・一人暮らしへのボランティア活動等に取り組んでいる。

『学校・子どもは地域の宝もの』全職員で地域に開かれた安全で楽しい学校づくりを進めているところである。高齢者「いこいの家」が学校の中に開設されているので、地域の方々とふれあいを深めながら豊かな自然の中で体験学習を実践している。

心に残る人々

熱塩加納村教育委員会教育長

小林 正守



私は昭和三十六年に田村郡の中学校に最初に赴任しました。校長

はその学校に十年程勤務されており、古風で芯が一本キチッと通った、義理人情に厚い感じの方でした。そんな気質だったので私は尊

心弾ませて

山都町立山都第三小学校
教頭 佐藤 めぐみ



秋の一日、地域の子どもたちと山都町歴史探検ウォークに参加した。文化財や史跡を辿りながらの約七キロメートルの道のりであった。

阿賀川ではかつての渡しをモーターボートで下った。貴重な代官所跡、特別公開の鎌倉時代の秘仏も見た。石の道標や家並みは水運で栄えた宿場町のありようを今に伝えている。大蛇伝説を持つ和尚山。ここからの眺望がまた素晴らしい。この地域の碩学が語る町の歴史に子どもたちも興味津々。次々に質問が飛び出す。こうして共にふるさと再発見ができた。主催者のご尽力のおかげである。心弾む体験ととびっきりの青空、暫く忙しさを忘れ、また頑張ろうと思わせてくれた一日であった。

私の恩師

会津坂下町立坂下小学校
教諭 小松 由紀



「学校って楽しいとこだな。」この一言が、教師になりたいたいというきっかけになりました。

これは、三年間ほとんど登校せず、小学校最後の一年間だけは休まず登校した、友達言葉です。この時の担任の先生のお姿を今でも覚えています。共に学び共に笑い、共に泣き、常に私達の側にいて、感動を与えてくださった先生です。一人一人に平等に接し、個性を生かして大切に育ててくださいました。

敬の念も込めて密かに「浪花節校長」とあだ名を奉っていました。職員クラブの飲み会の折り校長が学年主任に話しています。「先生、俺のところを浪花節校長と言ってるそうだが誰が言い始めたんだ」。酔いも一度に覚める思いで耳を澄ましてみると、主任は「はあ私も聞いてますが震源地は分かりません」ととぼけています。ちらち

らと見てみると校長はニコニコしながら話しています。怒ってはいないなとちょっと安心していると、「実は俺も気に入ってたんだ」と言われたので、ホット胸をなで下ろしました。正に冷や汗三斗の思いです。たぶん全てご存じだったでしょう。私の三十九年転任と同時に退職されました。現在も九十何歳かでお元気とお聞きしています。駅のホームで見送っていたら、以来お目にかかる機会もなく現在に至っていますが心に残るお方の一人です。

作品と指導

絵

不思議な木と虫たち

北会津村立荒館小学校

四年 手代木 里佳



〈指導の工夫〉
「おびきよせられた」という言葉から、想像できる事柄について話し合い、イメージをどんどん広げるよう工夫した。背景は、ローラーを使って自由に色を付けることにより、その後で不思議な香りと色で虫たちを呼びよせる木と、引きよせられて集まってくる虫たちを楽しく表現できました。

指導者 玉川 澄子

工作



小枝の小物入れ

山都町立山都第二小学校

三年 板橋 紗織

〈指導の工夫〉

学校の周りにあふれている秋の自然素材を集め、作りたいもののイメージを膨らませて完成した作品です。小枝の形や質感を生かしながら接着剤で組み合わせていき、いろいろな木の実で飾りをつけました。大切な人のプレゼントにしたいと思えるようなすてきな小物入れができあがりました。

指導者 星 裕美

習字

芸術

会津坂下町立第二中学校

一年 渡辺 和都

芸術

一年 渡辺 和都

〈指導の工夫〉
友達が和都君の習字を見て驚く。妥協のない取り組みを見て納得する。優しい筆使いを見て初めて行書の美しさに気付いた表情をした。

「好きな字でよい」と言ったら、書いた字が『芸術』であった。本物を求める心がある限り、小手先の表現力を越えようとする限り可能性は最大限に広がる。

指導者 堀 金美紀